南下浦中学校　　令和５年度　重点１

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	○ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の涵養
目標（評価規準）		①**【学習態度】**授業規律を守り、粘り強く学習に取り組んでいる。 ②**【対話的な学習】**自分の考えをもち、他者との対話を通して考えを深めている。 ③**【見通しと振り返り】**「見通し」をもって授業に臨み、単元終了後などで「振り返り」を行っている。 ④**【自学自習】**家庭での学習に自ら取り組んでいる。
重点に係る現状 設定理由		学習指導要領の「確かな学力の育成」を踏まえ、学習に対する目標を明確化・具体化し、その意義を踏まえながら向上心をもって粘り強く取り組む生徒の育成を家庭との連携のもとでめざしたい

評価資料	評　　価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	①【学習態度（生徒は授業に粘り強く取り組んでいるか）】については、肯定的な評価が92.6%であった。「あまり当てはまらない」と回答した教員は教職経験年数の少ない２名であった。 ②【対話的な学習（話し合い活動等を通して生徒は自分の考えを深めたり広げたりしているか）】については、肯定的な評価が96.3%であった。 ③【見通しと振り返り（生徒は見通しをもって学習し、振り返っているか）】については、肯定的な評価が81.5%であった。昨年度の同じ設問での肯定的な評価は68.1%であったので、13.4ポイント上昇した。 ④【自学自習（生徒に授業以外で自ら学習に取り組む力をつけさせる実践を行っているか）】については、肯定的な評価が85.2%であった。昨年度は、（生徒は家庭で学習していると思うか［肯定的な評価28.0%］）という設問だったので、比較することはできない。
各アンケート等の結果	○【学習態度】【対話的な学習】の項目においては、どの学年も生徒の肯定的な評価は80%以上、教職員は90%以上となっている。教職員の授業改善の姿勢とともに、生徒が前向きに授業に取り組み、仲間との対話を通して学びを深めている様子がうかがえる。 ○【見通しと振り返り】【自学自習】は、昨年度も同じく肯定的な評価が高くなく、課題となっている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	☆生徒自身が粘り強く取り組んでいるという自覚を持ち、教員も同様に受け止めていることから、生徒が前向きに取り組んでいるという実態があるといえる。 ★生徒、教員に対して相対的に保護者の方が低いことから、生徒の授業の様子が保護者に伝わっていないと考えられる。 ☆生徒、保護者、教職員の肯定的な回答が80%以上であることから、教師が話す時間より生徒同士が交流する時間の方が長い授業が増えており、主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点を実践できていると言える。また、話し合いや協力活動をしたあと、自分の考えを深めたり、広げたりする機会を増やすことが肯定的な評価の増加につながっていると考える。 ☆生徒、保護者、教職員の肯定的な回答が80%以上であることから、対話的な学習が多いというだけでなく、普段の人間関係づくりが十分に行われていると考えられる。 ☆教職員の肯定的な回答が昨年度に比べて増加していることから、生徒に見通しをもたせたり、振り返りをさせたりする場面をより意識して授業を行えていると考えられる。 ④家庭学習では、今年度の全学年の生徒・保護者、教員の回答を比べると、教員と生徒・保護者の回答に大きな差があり、生徒と保護者は、教職員以上に、家庭学習をもっと行うべきだと考えていると言える。教員に比べて生徒、保護者の肯定的な回答が少ないため、教員は実践している意識は高まっているが、生徒の実態は低いままであると言える。
学校関係者評価結果	○ 学校関係者評価委員会の協議をする前に、１～３学年の授業を全クラス、委員さんに見ていただいた。 ・どの学年も静かで落ち着いた授業態度だった。学校通信では行事や普段の授業の中での生き生きとした生徒の姿が出ているので、生徒自身でメリハリをつけ、楽しく学校生活を送っていることが伝わってくる。 ・授業にちゃんと向き合って学習している様子が見られ、とても感心した。 ○【対話的な学習（あなたのお子さんは周りの友だちと話し合い活動などを通して自分の考えを深めたり広げたりできていると思うか）】の項目で、２学年保護者の肯定的な評価が他学年より15～20ポイントも高いのは、どのような理由か→授業参観の際、学び合いの活動が中心となった授業を見ていただいたことが大きいか。 ○ 自分たちが教わってきていたときの授業とはかなり異なってきている。保護者の方もイメージがわききれていないのではないだろうか。**➡授業を見ていただいて、わかってもらう手立てを打つ必要がある。**
最終改善方策	○ 本校の授業は、新学習指導要領に基づいて適切に行われていると捉えている。今後さらに教職員間で共通理解を深めながら生徒の学力向上に向けて丁寧に取り組んでいく必要がある。 ○ 学校で学んでいる生徒の姿や各教科がどのような目標を持ち、どのように学んでいくことをねらっているのか、「見通しと振り返り」、「学びの意義」、「主体的・対話的で深い学び」など学習指導要領で示されているキーワードとともに丁寧に家庭や生徒に向けて説明・情報発信をしていくとともに、生徒の学びにつながるしかけづくりをさらに考え、実践していく必要がある。 ○ 令和５年度の中では、国語と英語において実践をしたが、小・中学校で授業づくりについての連携が進むことでさらに生徒にとって有意義な学びが展開されることが期待できる。職員の加重負担とならないように留意しながら取り組んでいくこととする。 ★ 保護者に授業の様子を見ていただく機会を増やすことが必要。 **➡ 次年度においては、通常の【授業参観】以外に、５月以降【学校に行こう週間】を月に１回実施する。**

南下浦中学校　　令和５年度　重点２

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	○ 自己肯定感をもち、互いに協働しながら、 持続可能な社会の創り手となろうとする生徒の育成
目標（評価規準）		①**【自己肯定感】**自分のよいところに気づき、自己の特性を活かしながら諸活動に取り組んでいる。 ②**【人権感覚の醸成】**人権感覚を身に付け、他人や社会との関わりの中で実践している。 ③**【集団生活の向上】**集団の一員として協力的な言動をとっている。 ④**【自治能力の向上】**よりよい学校生活・持続可能な社会を築くために、自分で考え、行動している。
重点に係る現状 設定理由		本校における人権教育の取組を継続しながら自己肯定感を育むとともに、多様な他者と協働する様々な集団活動（授業や行事等）を通して、よりよい学校生活や持続可能な社会を築こうとする資質・能力を育成したい

評価資料	評　　価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	①【自己肯定感（生徒が自分のよいところに気づけるためにどのような取組をしているか(記述式)）】では、「ポジティブなフィードバックや振り返りシートを通じて、生徒の成長を支援」「得意な活動を伸ばす機会を提供」「良い行動を観察しすぐに褒める」「仲間の活躍について振り返りやコメントを学級通信に記載」「リフレーミングや発想の転換を促す」などの具体的な取組が多数出た。 ②【人権感覚の醸成（生徒の特性を理解し、諸活動に生かそうとする態度を育成するための取組をしたか）】では、肯定的な評価が96.3%であり、昨年度より8.3ポイント上昇した。 ③【集団生活の向上（集団の中で仲間と協力して過ごすための望ましい言動についての指導をしたか）】では、肯定的な評価が100%であり、全職員一致団結して取り組むことができた。 ④【自治能力の向上（生徒の自治能力の向上に向けて具体的な取組をしたか）】では、肯定的な評価が88.9%であり、昨年度よりも4.9ポイント上昇したが、満足できる結果ではない。
各アンケート等の結果	①【自己肯定感】の項目では、昨年度は（自分にはよいところがあるか）という問いに対し、肯定的な評価が74.0%であったため、今年度具体的に記述することに変更した。自分のよさを何らか記述した生徒が94.4%であり、保護者も93.2%が肯定的な回答をしていた。「明るい」「元気」「できる」などのキーワードが多かった。 ②【人権感覚の醸成】では、生徒・保護者・教員の肯定的な評価が昨年度より５ポイント前後上昇している。 ③【集団生活の向上】では、生徒・保護者・教員の肯定的な評価は93%、94%、100%と、昨年度と同程度である。 ④【自治能力の向上】では、生徒・保護者・教員の肯定的な評価は57%、68%、89%と、昨年度と同程度である。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○【自己肯定感】については、記述式の回答としたことで、新たな南中生の姿が浮かび上がってきた。 ○ １年：元気/明るい/頑張る/優しい　２年：明るい/元気/勉強/頑張る　３年：明るい/ポジティブ/元気/優しいなどの言葉を使って自分のよさを表現する生徒が多かった。また、保護者からは、１年：優しい/友だち/素直/まじめ/明るい　２年：まじめ/優しい/友だち/素直　３年：優しい/明るい/友だち/努力/元気などのキーワードが使われていた。保護者の方々の子どもたちへの深い愛情を強く感じることができた。➡ **それぞれの「よさ」をさらに発揮できるような環境づくりを進めていく。** ○【人権感覚の醸成】では、道徳のローテーションで全職員で取り組み、いろいろな話・経験談などを聞く機会を設けており、外部講師、体験型授業（ブラインドサッカー）等で社会との接点を考えさせている。**➡引き継ぎが大切。長期視点を持って計画を立てる。** ○【集団生活の向上】の項目については、昨年度同様、肯定的な評価が高く、リーダーを中心とした仲間とともに行事や活動をつくりあげることができている。 合同レク、学年レクなどで交流する機会、活躍する場面を増やすことができ、その中で、リーダーを中心とした集団行動ができていることは、リーダーの発掘と成長ができていると考えられる。➡ **学年レク、合同レクなどの行事を行う際には、時期と内容の検討、何を目的として取り組むのか明確にして実施し、学年間、教員間の情報交換、意思疎通を行う。更なるリーダーの発掘と成長を図る。** ○【自治能力の向上】では、2学年保護者の肯定的な評価が他学年と比して優位に高い。（コロナ緩和後、地域の祭りや上小の式典手伝い等、2学年生徒が積極的に参加している様子がある）また、2学年生徒及び3学年生徒の肯定的な評価がやや高くなっている。学校・地域への活動に多くの生徒が参加している様子がうかがえる。 ● 以前と比較するといたずらなどは減少しているものの、地域からのクレームがやや増加している（一部の生徒・・公園使用のマナー vs 中学生の地域での居場所づくり）
学校関係者評価結果	④【自治能力の向上】の項目については、昨年度も課題として話題になった。評議員から、**「子どもたちは難しく考えすぎてはいないか。自分からあいさつをすることやそうじをがんばること、バスの中で席を譲ることなど、自然にできていることが『学校や地域社会をよくするための行動』なんだということをもっと教えてあげればいいじゃないか。」「小学校の運動会を見にきてくれた中学生が片付けを手伝ってくれたので助かった。」「中学生からあいさつをしてもらえて元気をもらっているおばあちゃんがいる。」**・・・学校としてもこうしたよさをしっかりと生徒に価値づけていく必要性が指摘された。
最終改善方策	○ 生徒一人ひとりのよさにしっかりと目を向け、その価値を的確に伝えていくことが大切である。 ○ 今後も様々な人権課題に目を向け、「知ること」「感じること」を大切に、人権を尊重する態度を育てる取組を継続していく。 ○ 生徒との関わりをさらに増やし信頼関係を一層厚くしていくとともに、生徒主体の行事となるように教職員全体で意識を共有し、学年を超えた交流ができるような行事を実施する機会を設定していく。 **➡ 学年を越えた生徒の交流が進むよう、生徒会主催の行事を実施できるコマを年間計画の中に位置づけた。**

南下浦中学校

令和５年度　重点３

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	○ 基本的な生活習慣を定着させ、よりよい人間関係を形成しながら、 自己実現を図ろうとする生徒の育成
目標（評価規準）		①【規律・礼節】秩序や規律のある生活を送るために、きまりの意義を理解し、礼節をふまえ、時と場に応じた言動をとっている。 ②【安心・安全な生活】暴力や暴言、いじめのない、安心して安全な生活を送っている。 ③【望ましい人間関係の構築】互いの人格と個性を尊重し、よりよい人間関係を築いている。 ④【進路選択】自分のよさを発揮するための主体的な進路選択を通して、自己実現を図ろうとしている。
重点に係る現状 設定理由		睡眠時間をしっかりと確保することや朝ご飯を食べること、SNSの正しい利用などの基本的な生活習慣を基盤としながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在および将来における自己実現を図っていくことができるようにしたい

評価資料	評　　価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	①【規律・礼節（生徒が礼節を踏まえ、時と場に応じた言動がとれる指導）】では、肯定的な評価が100%だった。 ②【安心・安全な生活（暴力暴言・いじめ・からかいが許されない環境づくり）】では、肯定的な評価が100%だった。 ③【望ましい人間関係の構築（生徒が困ったときに相談できる環境づくり）】では、肯定的な評価が92.6%だった。 ④【進路選択（将来の生き方を見据えながらの、情報収集や学習に意欲的に取り組む態度の育成）】では、肯定的な評価が88.9%だった。 いずれの項目も高い評価が出ており、教職員が一丸となって生活指導に当たり、「当たり前のことが当たり前にできる」落ち着いた学校づくりを進めることができた。
各アンケート等の結果	①【規律・礼節】では、生徒・保護者ともに肯定的な評価が90%を超えており、全ての学年の生徒で90%を超えている。また、昨年度と比べて、保護者の肯定的な割合が4.5ポイント増加している。 ②【安心・安全な生活】では、生徒・保護者ともに肯定的な評価が80%を超えており、2・3学年の生徒は肯定的な評価が85%を超えている。一方、各学年で3人ずつ、「全くあてはまらない」と回答している。 ③【望ましい人間関係】では、「相談できる大人がいない」と回答した生徒が13名おり、そのうち8名が「相談できる友だちがいない」と回答している。また、3名が、「相談できる友だちがあまりいない」と回答している。生徒全体では38名(13.4%)が相談できる大人がいないと否定的な回答であった。 ④【進路選択】では、生徒・保護者ともに、学年が上がるにつれて、肯定的な評価が高かった。一方、1・2学年の生徒は、否定的な意見が3割を超えており、保護者も2割を超えている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○「規律・礼儀」の項目では、昨年度よりも肯定的な評価が高くなった。誰もが安心して学校生活を送れる環境を整えることが一番大切だという思いをあらためて認識した。 ● 一方、「望ましい人間関係」の項目では、気になる点も明らかになった。この現状を真摯に受け止め、よりきめ細かく生徒の心の動きに注意していくことが重要である。 〇 SCの役割について教員・生徒とともに理解が深まり、自ら相談したいと要望を出してきた生徒が増えた。 ○水曜アンケートによる早期発見や教員間の情報交換が徹底できているため、丁寧な対応ができていた。おおむねどの学年も生徒と教員との信頼関係が築けており、安心して学校生活を送れている生徒の増加につながっていると考える。 ○ 今年度は、「南中のきまり」を一部改正したが、教員の共通理解が徹底できていたこともあり、大きな混乱もなく、生徒も変化に順応していた。 ●一方で、「きまり」を守る生徒は多いが、「きまり」の意義まで考えようとする生徒は減っているように感じる。 ➡「きまり」の意義まで理解し守れるようにする手立てを考える。 ○進路＝高校進学に結び付ける生徒・保護者が多いと考えられる。 幅広い選択肢と先を見通す力を付ける手立てを取りたい。 ➡ 2年次に職場体験を行うとともに、進路学習の際は、引き続き高校に進学することだけに意識が傾かないよう計画・実施する。
学校関係者評価結果	○ スクールカウンセラーへの相談が増えたことは、SCの来校回数が増えたことや、具体的で専門的な対処の仕方を、学校の先生とは異なる立場で話してくれることが生徒に受け入れられているからだろう。
最終改善方策	○ 全体としては、秩序や規律のある生活を送るための基本的な礼儀や礼節を踏まえた言動ができている。今後も引き続き、教職員と生徒・保護者との温かい信頼関係のもとで指導・支援していく。教職員の中では今後も、情報共有を充実もさせながら、一丸となって、普段の生活が充実する指導を進めていく。 ○ 水曜アンケートの中で、スクールカウンセラーに相談したいことがあるという項目に○をつける生徒が増えてきたことは、とてもよいことだと捉えており、今後も活用をうながしていく。 ● SNSトラブルなど、匿名性を利用した学校外での問題行動は増加している。 ○ SNSの危険性や発信に伴う責任を生徒だけではなく保護者も含めて意識していくことが必要であり、今後も、家庭と学校で連携をしながら情報の扱いに関する指導を行っていくことが必要である。 ○ 同様に、教職員自身も自らの襟を正し、生徒の模範となるような言動をしていかなければならない。 ➡ クラス内での帰活レクや授業内でのグループ活動、校外学習など生徒同士のコミュニケーションを図る場を意識的に増やし、生徒のコミュニケーション能力をさらに高めていくための取組を進めていく。